

事務事業名	7025 農政対策事業													
担当組織	環境経済部					経済政策課					担当	労働農政担当		
組織コード	H30	15	01	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	06	01	01	01	01	記入日	平成30年06月13日
	H29	15	01	00		H29	01	06	01	01	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	06	活力と賑わいを創出できるまち										● 対象 ○ 対象外	
分野	03	地域資源											
施策	71	都市型農業の振興											
事業期間	昭和50年度～平成32年度												
根拠法令 通達等	戸田市農業研究会補助金交付要綱 土に親しむ広場の設置に関する要綱					関連計画 施政方針							
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	市民・農業者・市内在住広場利用者・農地所有者												
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姉妹都市での収穫体験や戸田収穫祭を通じて、市民の都市型農業に対する理解を深める。 ・ 農産物の栽培から収穫まで体験することを通じて、市民の農業への理解を醸成する。 												
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸田収穫祭を開催し、姉妹都市等や市内農家が生産した農産物の直売を実施する。 ・ 姉妹都市交流事業として、市民を対象に美里町での収穫体験を実施する。 ・ 食育の一環として、学校教育や保育園活動において地元産の野菜等に触れる機会を提供する。 ・ 農地所有者から申出のあった農地を市が借り受けて、農園として整備し、利用希望者へ区画を貸し出している。 												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 (農業研究会)												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		9,691	6,320	7,982	6,320	6,320	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	3,562	3,562	3,562	3,562	
	一般財源		9,691	2,758	4,420	2,758	2,758	
	人件費		0	10,345.5	10,345.5	10,345.5	10,345.5	
	投入 人員	常勤職員	0人	1.5人	1.5人	1.5人	1.5人	
		非常勤職員	0人	0.5人	0.5人	0.5人	0.5人	
事業費+人件費		9,691	16,666	18,328	16,666	16,666		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動	① 市民農園「土に親しむ広場」区画 利用割合	%	年度末の段階で利用されている区画の割合		100	100	100
		② 市民農園「土に親しむ広場」応募 倍率	倍	募集する空き区画への応募倍率		2	2	2
	成果	① 収穫祭の参加者数	人	来場者延べ人数		2,300	2,400	2,500
		② 姉妹都市交流事業美里町収穫体験 参加者数	人	定員×実施回数		2,300	2,540	—
						160	80	72
					80	72	—	
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 美里町での収穫体験では、定員を超える応募はあったものの、当日までにキャンセル等もあり参加者は72名となった。 戸田収穫祭では、姉妹都市や出店農家から商品を提供してもらい、抽選会を行った。抽選券がすぐになくなるなど、大好評となった。 土に親しむ広場では全体の応募倍率が2.5倍となるなど、キャンセル待ちも発生する状況となっている。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	B	A	＜判断理由＞ 収穫祭や姉妹都市での収穫体験実施に加え、市民農園の利用率も100%となっており、市民の農業への理解に寄与している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	＜判断理由＞ 効率的に事務を行っており、適正な範囲と判断できる。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	C	B	＜判断理由＞ 姉妹都市での収穫体験では定員以上の応募があり、また、土に親しむ広場では定期的に職員による広場訪問等により、広場でのトラブルに対応できる事業運営を行っているなど、適正な内容であると判断できる。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	＜判断理由＞ 姉妹都市での収穫体験では参加者からも料金を徴収しており、土に親しむ広場についても利用者から維持管理料を徴収するなど、受益・負担は適正な範囲であると判断できる。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	新たに土に親しむ広場を1箇所開設し、より多くの市民に農業を体験してもらえよう改善を図った。
見直しの効果	43区画増加したことにより広場全体の応募倍率は低下し、広場利用を希望する市民により多く行きわたるようになった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	＜判断理由＞ 本市では都市化が進行し、農家数・農地面積いずれも減少傾向にあるため、産業として維持することは困難であるが、収穫祭や姉妹都市での収穫体験等は好評を得ており、市民の食や農に対する関心はより高まっていると思われる。また、余暇の多様化や食の安全性への意識の高まりから、土に親しむ広場の利用希望者は今後も増加していくと考えられる。事業を継続していくことで、姉妹都市での収穫体験等の機会を提供していくとともに、土に親しむ広場を活用した農地の維持管理に努めていく必要がある。
今後の取組方針	姉妹都市での収穫体験や土に親しむ広場など、市民が農業へ触れる機会を創出し、都市型農業への関心を高めることができるよう事業に取組む。